

研究資料

新出「福の神付き赤犬棒かるた」の影印と紹介

吉 海 直 人

同志社女子大学
表象文化学部・日本語日本文学科
教授

A bibliographical introduction to AKAINUBO-KARUTA

Naoto Yoshikai

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Culture and Representation,
Doshisha Women's College of Liberal Arts,
Professor

【要旨】

「いろはかるた」研究の一環として、今回は「福の神」札が付いている比較的古い「江戸いろはかるた」を紹介する。「福の神」付きかるたとしては、これまで滴翠美術館所蔵のかるたしか報告されていなかった。同版ではないものの、今回紹介するかるたによって、滴翠美術館所蔵の欠札を補うことができるので、ようやく揃いとして研究材料が提供されたことになる。

一

江戸時代の「いろはかるた」は美術品ではなく、比較的安価な子供の遊び道具だった。そのため美品あるいは揃い（完品）で伝存しているものは稀である。また一枚物の骨刷りであれば、枠外にいつ頃どの書肆から刊行されたかわかる情報が刷られている場合もあるが、かるたに仕立てられたものは、元箱や元袋すら失われているものがほとんどなので、それ以上確かめられないことが多い。

かつて駿々堂ユニコンカラー双書の一冊として昭和五十一年に刊行された『いろはかるた』（戸板康二著）には、芦屋にある滴翠美術館所蔵の古い「犬棒かるた」（江戸いろは）がオールカラー図版で紹介されていたが、それとて合計八枚の札が欠けており、全貌をつかむことはできなかった。

それでも滴翠美術館のかるたが図版として用いられているのは、それ以外のかかるたに較べて成立が古そうであること、また別に珍しい「福の神」札が付いているからであろう。しかも「い」札が絵札も取り札も赤く塗られており、いわゆる「赤犬棒かるた」と称されるタイプのものであることもあげられる。

もっとも、「赤犬棒」だからといって必ずしも古いわけではない。幕末から明治初期にかけて刊行された「犬棒かるた」の大半は、むしろ「赤犬棒」タイプの方が多いようである。逆に兵庫県立歴史博物館所蔵の嘉永五年に刊行された芳員画の「新版いろはかるた」（和泉屋市兵衛板）は「赤犬棒」ではないので、その点は今後の課題であろう。

二

さて「いろはかるた」とは直接関わらない「福の神」札だが、これは二枚で対になっている。一枚は絵札で福の神が描かれている。もう一枚は字札で「福の神さすかる子にはかし一ツやるべし」と記されている。ただしこれを加えてどう遊ぶのかはよくわかっていない。

普通に字札を読んで絵札を取り合うのであろうか。それだと「さすかる（授かる）」の意味が解せない。これは札が何枚取れたかによって競うかるた取りとは別に、たまたまこの札を取った人にお菓子がもらえるという趣向（特別賞）であろうか。

このいわゆる「福の神付きいろはかるた」は、長らく同版のものが見つからなかったようである。同版どころか、福の神札を伴った「いろはかるた」の存在自体

が報告されていない。最近たまたま入手した「いろはかるた」の一つに「福の神」が付いていたので、滴翠美術館のものと較べてみたところ、ほぼ同じ図柄であることが確認できた。ただし花の模様の大きさや字の微妙な違いがあるので、同版とは断言しがたい。

惜しいことに、新出のかるたも札が七枚欠けているのだが、幸運なことに欠札は両者で重複しておらず、これによって滴翠美術館の欠札八枚を埋めることができるし、逆に滴翠によってこちらの欠札七枚を補うこともできる。どうせなら揃いのかるた（元箱入り）を発見するのが一番だが、少なくともことわざの本文はこれなんとか揃ったわけであるから、それだけでも取りあえずは進展としたい。

ついでながら、別に「宝物」が描かれている絵札付きのかるたと、福の神付きの「役者かるた」も入手した。それでも遊び方は不明であるが、こういった付録についても今後注意して見ていきたい。

三

入手したかるたの簡単な書誌を記しておく。元箱・袋が欠けているので正式な品名は不明。仮称「福の神付き赤犬棒かるた」。刊行は幕末前後か。一枚のサイズはタテ五、五cm×ヨコ三、七cm。絵札には赤と青の着色あり。字札には赤い梅の花模様と丸型の模様がある。欠けているのは、絵札は「あ」、字札は「へ」「り」「を」「の」「ま」「も」の計七枚である。

なお滴翠美術館所蔵で欠けているのは、絵札四枚（へ・そ・お・け）と字札四枚（ちりつもりてやまとなる」「るりもはりもてらせばひかる」「たびはみちづれよはなさけ」「あものにへたもごぞんじなし」の計八枚である。これで二つを合わせると全体を見渡すことができることになったので、欠札をカラー双書のコピーで補って、揃いの体裁で図版として掲載しておくことにする（あくまで参考のためである）。

【翻刻】 福の神付き赤犬棒かるた

い いぬもあるけばぼうにあたる
ろ ろんよりしようこ

は はなよりだんご
にくまれこくちにはゝかる

ほ ねをりぞんのくたびれもうけ
 へ (へをひつてしりつぽめ)
 と としよりのひやみつ
 ち ちりつもりてやまとなる
 り (りちぎもの、こたくさん)
 ぬ ぬす人のひるね
 る るりもはりもてらせばひかる
 を (をひてはこにしたがふ)
 わ われなべにとじふた
 か かつたいのかさうらみ
 よ よしのすいからてんじやうのぞく
 た たびはみちづれよはなさけ
 れ れうやくくちにがし
 そ そうれうのじんろく
 つ つきよにかまをぬかる、
 ね ねんにはねんをいれ
 な なくつらをはちがさす
 ら らくあれはくあり
 む むりがとうれはどうりひつこむ
 う うそからてたまこと
 ゐ ゐものにへたもごぞんじなし
 の (のともとすぐればあつさわする、)
 お おに、かなぼう
 く くさいものにはふた
 や やすものかひのぜにうしなひ
 ま (まけるはかち)
 け けいはみをたすくる
 ふ ふみはやりたしかくてはもたぬ
 こ こはさんがひのくびつかせ
 え えてにほをあげ
 て ていしゆのすきなあかゑほし
 あ あたまかくしてしりかくさす
 さ さんべんまはつてたばこにしよ

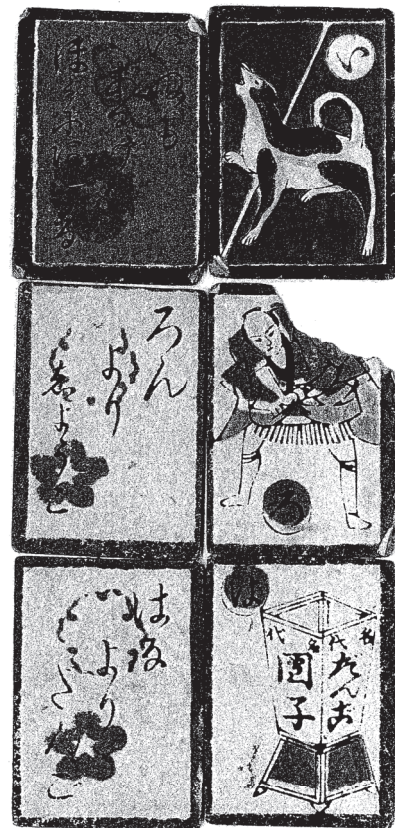


〈図版1〉福の神三種

き きいてごくらくみてぢこく
 ゆ ゆだんたいてき
 め めのうへのこぶ
 み みからでたさび
 し しらぬかほとけ
 ゑ ゑんはいなもの
 ひ ひんばうひまなし
 も (もんぜんのこぞうならわぬきやうをよむ)
 せ せにはらはかへられぬ
 す すいがみをくう
 京 京のゆめ大さかのゆめ
 頭字なし 福の神さすかる子にはかし一ツやるべし



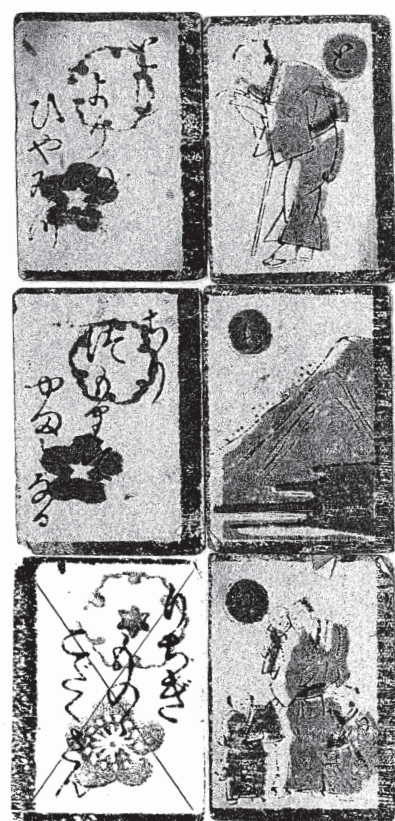
〈図版3〉にほへ



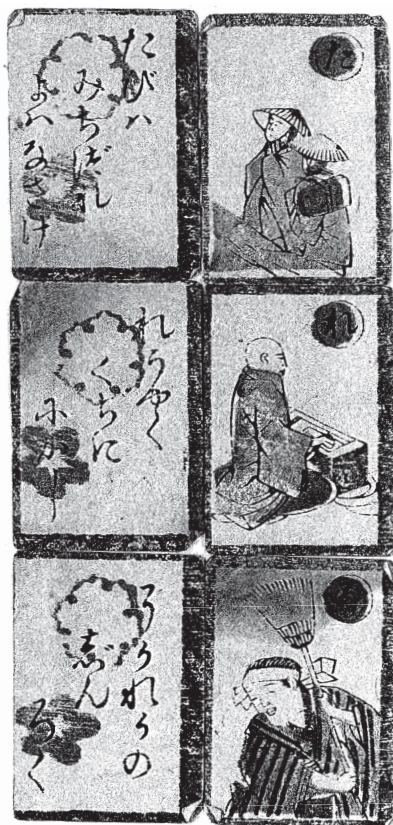
〈図版2〉いろは



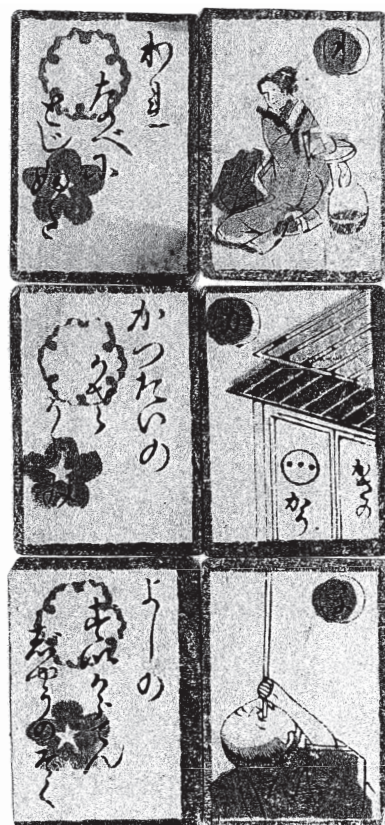
〈図版5〉ぬるを



〈図版4〉とちり



〈図版7〉たれそ



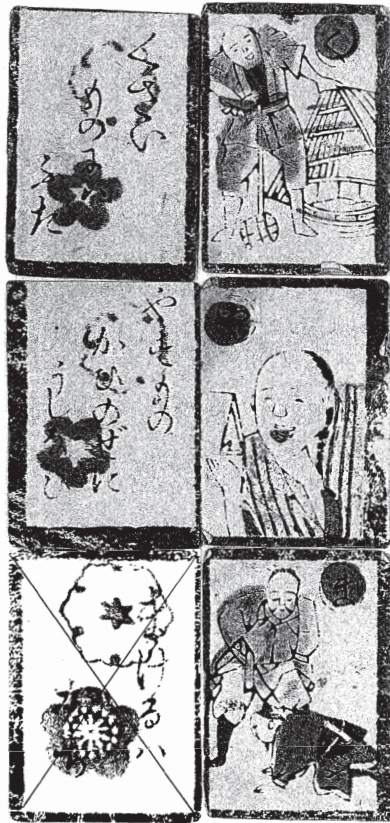
〈図版6〉わかよ



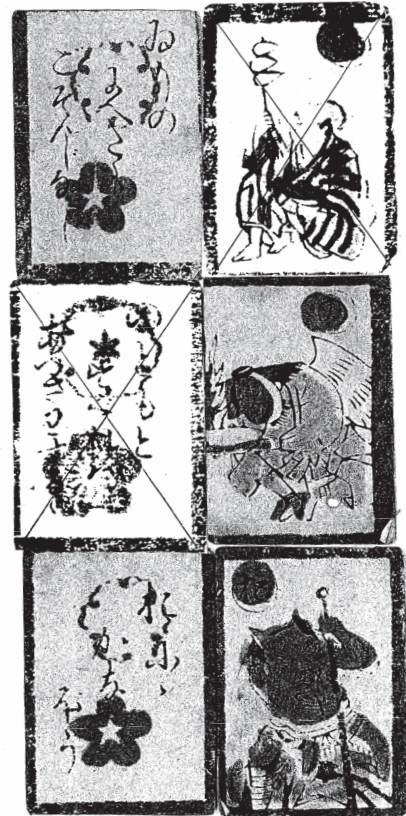
〈図版9〉らむう



〈図版8〉つねな



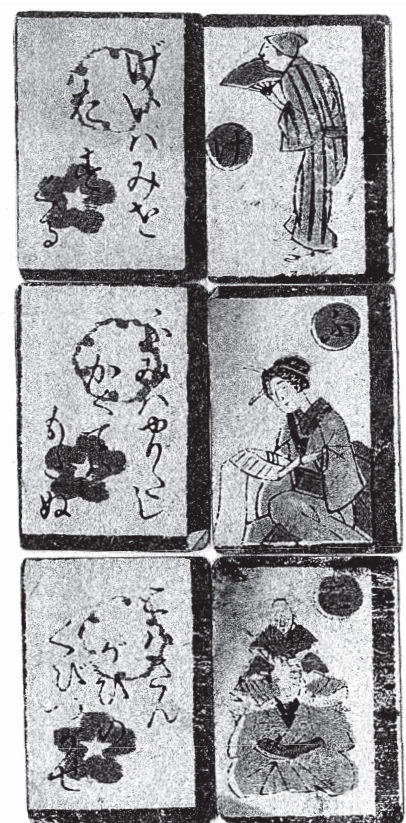
〈図版11〉くやま



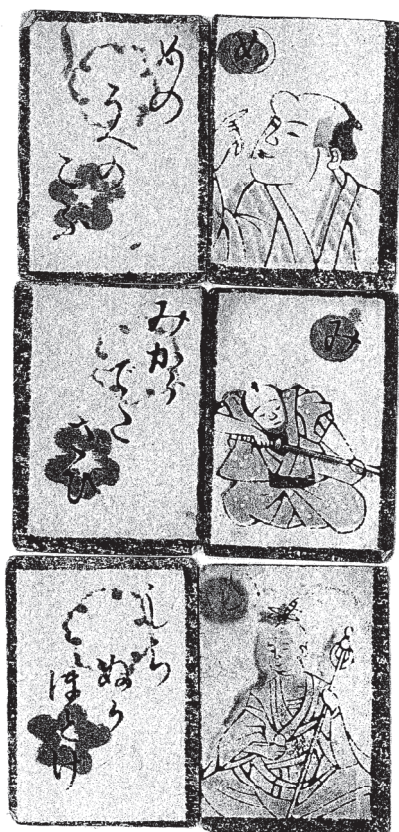
〈図版10〉ゐのお



〈図版13〉えてあ



〈図版12〉けふこ



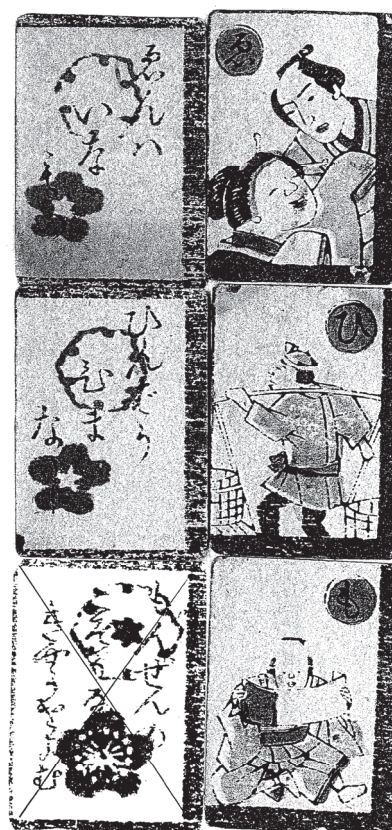
〈図版15〉 めみし



〈図版14〉 さきゆ



〈図版17〉 せす京



〈図版16〉 糸ひも

